



奈良市議会議員

# 太田こうじ

## 夢づくり、 安心づくり、 奈良づくり

市政報告  
**あをがき通信**  
Vol.19

平素より私の政治活動にご理解を賜り、ありがとうございます。

約3年間にわたる新型コロナウイルス感染症との社会生活も、政府方針により感染法上の分類を5月8日より、2類から5類へ変更することを決定する等、アフターコロナの社会に向けて本格的に動き始めたと言えます。

さて、市議会3月定例会では令和5年度一般会計予算(過去最大規模で約1499億円)をはじめとする議案 審議が行われ、3月22日に議決されました。新年度予算の特徴としては、コロナ後を見据えた未来投資型の予算として、1子どもの成長を応援するまち、2学生・若者が活躍するまち、3脱炭素社会の実現と人にやさしいまち、4DXで暮らしをアップデートするまち、5新しい価値を生み出すまち、として計5本柱が提案されました。

政府においても少子化対策が叫ばれるなか、それぞれの自治体の中で子育てや若者への支援策の工夫が行われることはもちろん望ましいことです。一方で、私をはじめ議会から指摘があったのは、団塊の世代が高齢化を迎える時代にあつて、高齢福祉についても新規予算を拡充する等さらなる工夫が必要ではないかという点であります。

今号では、議会質疑の内容のほか、議会活動の取り組みの一部をご紹介します。市政へのご意見がありましたら下記連絡先までお声を寄せ頂ければ幸いです。

○経歴 昭和54年(1979年)奈良市生まれ。市立あやめ池小学校卒、奈良市議会議員 太田晃司事務所  
大阪明星中学・高等学校卒。関西学院大学法学部卒。〒631-0033 奈良市あやめ池南五丁目2-18  
2013年7月より奈良市議会議員(現在3期目) Tel: 0742-40-5015  
自民党奈良市議会・結の会に所属。 Fax: 0742-40-5016  
厚生消防委員会委員、議会運営委員会委員長。 Mail: info@otakoji.net

### 令和5年度3月 定例会のご報告

### 議会運営委員長の活動ご紹介

#### ◎姉妹都市トレドへ渡航

22年11月6～10日の日程で、市長とともに議会を代表しての渡航となりました。機内2泊、現地2泊の強行日程となりましたが、奈良市との姉妹都市締結50周年を記念しての事業でトレド市長表敬をはじめ、同市内で奈良の名前が付いた学校、コレヒオナラ訪問のほか、マドリッドに本部がある国連観光機関UNWTO訪問等をさせていただきました。トレド市長との懇談では2025年の関西万博に奈良市・トレド市双方が事業協力の約束を頂くなど意義のある渡航となりました。



ミラグロス・トゥーロン・ハイメ市長を囲み大聖堂前のトレド支庁舎にて

#### ◎奈良大学と奈良市議会の間で包括連携協力を締結

2019年より奈良大学と市議会は協力関係を進めて参りました。22年は若者の政治参画というテーマで行われた市議会報告会にご協力をいただき、10～11月は市議会より私が学生向けに市政の仕組みについて講義をさせていただきました。また各常任委員会の委員を務める議員が学生とワーク



トレド市内のコレヒオナラ(奈良学校)を表敬。二名小学校と絵手紙交換が行われました

シルクロードの東端の奈良市、ユーラシア大陸西端のトレド市の友好の絆がさらに深まるように私も国際交流のバトンを繋いで参ります。

ショップを複数回行うなど事業を展開して参りました。

副議長を筆頭に議会運営委員会正副委員長とて大学連携チームをこれまで進めてきた結果ですが、12月16日の協定式を期に、3月19日には奈良大学オープンキャンパスで富雄丸山古墳で日本最大の蛇行剣が発掘されたことから保存と地域振興を巡って共同シンポジウムを開催させて頂きました。同大学との連携のもと、地域社会の発展や人材育成を目指して進んで参ります。



22年10月に奈良大学の大学生へ市議会の仕組みについて講義させて頂きました

太田こうじ

検索

<https://www.otakoji.net>



各種 SNS でも情報発信しています!



フェイスブック公式ページ  
<https://m.facebook.com/otakoji.nara>



Ameba 公式ブログ  
<https://ameblo.jp/otakoji-nara/>



フェイスブック公式ページ



Ameba 公式ブログ



◎**新年度の高齢者施策とは**


一面でも紹介をさせて頂いたように、新年度は未来投資型予算と掲げられており、どうしても子育て世帯や若者へ焦点が移りがちです。私をはじめ議会中の予算決算委員会指摘がありました。高齢者福祉への新規施策への乏しさは否めません。約35万人の本市人口のうち65歳以上は11万人(約31%)と増加傾向にあるなかで、世代を問わずバランスの取れた施策の展開が求められます。特に病気にかけにくい身体づくりの観点から健康寿命の延伸は必須です。

私は委員会質疑で、コロナ環境下が続く室内にこもりがち条件が続いていたことを踏まえ、フレイル(加齢等により心身が脆弱になった状態のこと)を予防する事業の充実の必要性を指摘しました。また市内の老人福祉団体である**万年青年クラブ**の会員数が、過去5年間で5,000人も減少し令和4年度は約6,400名の会員となっていることを踏まえ、会員増強に向けてのインセンティブ(奨励)を伴う支援策を充実することの必要性を指摘しました。

前回の市政報告あそびでも取り上げさせて頂きました**市内バスネットワークの赤字15路線**については令和5年度は現状維持のままととなりました。本市としてはバス会社に対しEVバス2台の導入促進(6,800万円)、ノンステップバス6台の導入補助(6,000万円)が計上されており、実質上の赤字補てんとも言えます。私は問題を先送りせず、市内の公共交通機関の代替手段も含め様々な選択肢を早期に市民に提示することが必要と考えます。

なお、4月1日から**近鉄電車の運賃が27年ぶりに値上げ**されることになりました。これらを受けて、令和5年度は国、県、市、近鉄のそれぞれの負担金のもと**市内の主要駅のバリアフリー**が行われます。平城駅はエレベーター2基等の設置。高の原駅はトイレ改修等、新大宮駅はホームベンチ改修、菖蒲池駅と西ノ京駅はトイレ改修ならびに待合室自動化等が行われる予定です。

令和5年度予算の主要な事業は、次のQRコードからご参照下さい。



◎**大和西大寺駅 北ロータリーが整備**

国の社会資本整備総合交付金を活用して進められてきた大和西大寺駅北ロータリーについてはバスやタクシーの乗り合い場の用地を拡幅し、令和4年度で整備が完了となりました。またサンワシティと南都銀行のビルを挟む市道西大寺一条線についても一部整備が行われています。

この西大寺一条線の横断歩道付近では、昨年7月に安倍晋三元総理が参議院議員候補の応援演説中に凶弾に斃れるという痛ましい事件が起こった場所でもあります。自民党派では3月定例会、またそれ以前の委員会等で、今回の整備にあたっては①歴史に残る事件を風化させないためにも現場を保存すること、②慰霊碑等を設置することを市執行部に議会質問等を通して求めて参りました。結論としては、どちらも消極的な回答でありました。議会に対しては同趣旨の陳情書や3万を超える署名が寄せられ、私も相談に応じてきただけに、残念な結果であります。なお斃れた場所は車が通行しないよう外側線と歩道緑石の間に整



整備が完了した銃撃現場付近(花壇奥が外側線)当初よりも花壇の面積は半分以下になった



奈良市が採用した西大寺一条線の整備イメージ図

備する、また様々な思いを受け止められる場としたことから歩道緑石そばに花壇が設置されました。今後は、様々なお知恵もお借りしながら慰霊碑等の設置実現に向け、引き続き注力して参ります。

3月定例会での  
主な質疑項目ご紹介

3月定例会

◎**保育料第2子無償化へ**

新年度予算の5つの柱のひとつ「子どもの成長を応援するまち」として、令和5年4月から、**保護者の所得や子どもの年齢等にかかわらず、第2子以降に該当する子どもの保育料が無償化**される制度が4月から始まっています。予算決算委員会厚生消防分科会での私の質疑で明らかになった点をいくつか紹介させて頂きます。

ポイントは3点です。1点目は**負担軽減**です。第2子保育料を半額負担とされていた市民は、令和4年4月1日現在で840名であり、相当分の家計負担の軽減策となります。2点目は、**多子算定の基準の変更**です。これまでは教育利用(1号認定)については小学校3学年終了前の子ども、保育利用(2・3号利用)については小学校就学前の子どもとなっていました。たとえば第1子と2子の年齢差がこの基準を上回ると多子世帯としてカウントされない状況が続いており、私も過去に市民から課題の相談を頂いていました。多子算定を今回の制度へ移行するこ

第2子のカウント方法について

	就学前			小学生以上
同一世帯でのきょうだい数	第2子	第3子	第4子	第1子
令和4年度まで	無償	保育料は半額負担(3〜5歳児の場合は無償)	保育料は全額負担(3〜5歳児の場合は無償)	小学生以上はカウント対象外
令和5年度から	無償	無償	無償	小学生以上の子どももカウント対象に加える

子育て@なら 奈良市子育ておうえんサイトより抜粋

と、及び現在保育料半額の第2子が無償になることにより計1269名への影響が考えられます。

3点目は**副食費**についてです。第3子以降に該当する3〜5歳児の副食費免除を行う事業です。なお現行の第1〜2子の副食費について免除した場合、令和4年4月1日現在の在園児で試算すると事業費は約2億円となります。

◎**奈良市は子育てしやすい街か**

ところで、奈良市は子どもを持つ親、これから子供を産み育てたいと思う夫婦にとって住みよい街と言えるのでしょうか。近年、奈良市が公表している数字からは3つの視点から分析ができると考えます。

1点目に**子育て**の視点です。共働き子育てしやすい街ランキング2022では関西1位、全国6位にランクインしています(日経xrecoによる45項目での数値化によるもの)。

人口減少には社会増減(転居等を理由)と自然増減(出生と死亡を理由)の2つの側面があります。

2点目には**社会増減**についてです。2021年の奈良市人口の転入超過数が過去9年で最大になっています。3点目は**自然増減**についてです。本市の場合、合計特殊出生率を比較したところ、**全国平均よりも低い推移**が続いていることが分かります(2021年調査、全国平均1.3、奈良市1.19、奈良県1.3、明石市1.65)(女性人口(15〜49歳)と出生数は共に減少傾向)。

こうしたデータを比較すると、**奈良市は子どもを持つ親にとっては一定の子育てしやすい街か**



泉房穂市長から街づくり政策について学ぶ

子育てのしやすさの評価はできるものの、出生数そのものの減少傾向に歯止めが係っていない状況にあります。結婚した人がどれだけ出産しているか(有配偶出生率)は20年前よりも上昇しているという数値もあります。全国的に、結婚自体が晩婚化の傾向があるなかで、第2子への補助だけでなく、結婚とともに第1子を産み育てようと考えていただけるような施策による後押しが必要なのです。

私は、昨年1月に地方議員の有志で明石市・泉房穂市長を訪問し、子どもを核とした街づくりについて理念や政策について伺う機会を得ました。この度で勇退をされますが、全国的に注目されている当市の街づくり事例を参考に、奈良市でも活用できないか、さらに調査を進めて参ります。